

令和2年度

指導員養成訓練

短期養成課程シラバス

(指導力習得コース)



職業能力開発総合大学校

POLYTECHNIC UNIVERSITY(PTU)

Ⅲ 科目配当表

【短期養成課程指導力習得コース科目配当表（令和2年度受講者用）】

（4科目 144時間）

授 業 科 目 名	講/演/実	履修年次	必修/ 選択	時間数
授業計画法	講	総合課程 3 年次	必	36
技能指導法	講	総合課程 3 年次	必	36
訓練評価法	講	総合課程 3 年次	必	36
教材開発法	講	総合課程 3 年次	必	36

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 短期養成課程(指導力習得コース)

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数	担当者
全指導科(短期)		授業計画法 (Method of Teaching Plan)	36H	新井 吾朗
科目・コース 区分	指導力習得コース			
授業形態	講義		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	3年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>職業訓練指導員には、職業能力開発促進法に基づくさまざまな課程の職業訓練を計画し、実施することが求められる。この場合、与えられるカリキュラムや授業計画、教材類に沿って訓練を実施することだけにとどまらず、法の規定、産業や地域、働く人の希望などを勘案した計画が求められる。こうした背景から、本科目は、職業訓練の役割、法の規定、産業や地域の要望を反映させた訓練計画、単位授業の計画を立案する方法を習得することを目的とする。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな職業能力開発施設が実施している職業訓練の課程を判別できる 2 公開されたカリキュラムモデルを参考に能開法に基づく普通課程/短期課程(システムユニット訓練)のカリキュラム案を作成できる 3 特定の職種・作業に必要な職業能力を育成するカリキュラムを計画できる(能力資質分析・目標分析・作業分解) 4 単位授業の指導案をPOCEが一貫するように作成できる 5 単位授業の指導案を指導の3原則4活動を組み合わせて作成できる

授業計画		備考
1	科目のガイダンス 職業訓練の目的・基本理念	講義・演習
2	訓練課程の種類	講義・演習
3	訓練コースの計画(長期課程) 1	講義・演習
4	訓練コースの計画(長期課程) 2	講義・演習
5	訓練コースの計画(短期課程) 1	講義・演習
6	訓練コースの計画(短期課程) 2	講義・演習
7	能力資質分析によるカリキュラム開発 1	講義・演習
8	能力資質分析によるカリキュラム開発 2	講義・演習
9	目標分析によるカリキュラム開発	講義・演習
10	作業分解によるカリキュラム開発	講義・演習
11	指導案の書き方(目的・到達目標・指導項目) 1	講義・演習
12	指導案の書き方(目的・到達目標・指導項目) 2	講義・演習
13	指導案の書き方(指導の3段階と4活動) 1	講義・演習
14	能力の種類と指導方法の原則 1	講義・演習
15	能力の種類と指導方法の原則 2	講義・演習
16	指導案の書き方(指導の3段階と4活動) 2	講義・演習
17	指導案の活用、指導の実演 1	講義・演習
18	指導案の活用、指導の実演 2	講義・演習

評価方法	<p>演習課題 評価の前提条件 4/5を超える出席、すべての課題の提出 各課題をA+・欠点がない、A・欠点が1,2ある、B・誤りが1,2見られる、C・誤りが3,4見られる、 D・授業で扱った技術を適用していると認められないで評価する。 Dの場合、再提出を求める場合がある。 科目を代表する課題の評価で、点数をつける。</p>
教科書及び参考書	教科書: 自作テキスト、コンテンツ:eラーニング教材
主な使用機器等	パソコン、 プロジェクタ
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 短期養成課程(指導力習得コース)

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数	担当者
全指導科(短期)		技能指導法 (Skill Instruction Method)	36H	安原 雅彦
科目・コース 区分	指導力習得コース			
授業形態	講義		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	3年次 前期		必修	

授業の目的と概要
訓練を適切・安全かつ効果的に実施するため、職業環境の現状を把握し、求められる能力の特徴に応じた指導計画の立案や訓練実施に必要な能力を習得する。

到達目標
労働市場について分析できる 職業能力評価基準及び職業能力開発体系について説明できる 授業科目について授業の目的・目標・指導項目の設定ができる 習得する能力に応じた適切な課題を選定することができる 指導案と教材を作成することができる 作成した指導案、教材を用いて指導の展開ができる 授業の評価・改善ができる 安全指導ができる

授業計画		備考
1	ガイダンス 担当教員紹介 本講義の目的・目標 本講義の進め方	講義
2	指導員の役割について	講義・演習
3	指導技術技法 話し方の技術	講義・演習
4	教材提示の技術	講義・演習
5	実演の技術	講義・演習
6	講義のための準備	講義・演習
7	・講義課題の選定	講義・演習
8	・指導案の作成	講義・演習
9	・指導案の作成	講義・演習
10	・講義教材・資料の作成	講義・演習
11	・講義教材・資料の作成	講義・演習
12	・模擬授業の実施	講義・演習
13	・模擬授業の実施	講義・演習
14	・模擬授業の実施	講義・演習
15	・模擬授業の実施	講義・演習
16	・模擬授業の実施	講義・演習
17	・授業の評価と改善	講義
18	・総合評価、まとめ	講義

評価方法	指導案 提出資料 模擬授業による総合評価 合格基準は60%以上。
教科書及び参考書	教科書: 自作テキスト
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ、レーザーポインタ、指示棒、ストップウォッチ等、卓上ベル、ビデオ、カメラ、書画カメラ等
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 短期養成課程(指導力習得コース)

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数	担当者
全指導科(短期)		訓練評価法 (Training Evaluation Methods)	36H	深江 裕忠
科目・コース 区分	指導力習得コース			
授業形態	講義		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	3年次 後期		必修	

授業の目的と概要

職業訓練指導員は、訓練の実施するなかで評価も行う。ただし、この評価とは、訓練生の成績をつけるという意味ではない。それ以外にも、訓練活動の評価も行う。訓練活動とは、訓練計画、訓練カリキュラム、訓練教材、訓練手法、訓練環境といった、訓練全体の内容のことである。この訓練活動を評価することで、訓練内容のどこに問題があるのかを見つけ、改善点を明らかにすることができる。また、訓練生を評価するときには、公正で不公平のないように実施するのが肝要である。そのためには、訓練評価の4つの性能を見極めて、4つの性能のバランスを取ることが大事である。本授業では、訓練生と訓練活動の評価ツールの開発だけでなく、4つの性能も考慮したバランスのよい訓練評価を習得することを目的とする。

到達目標

- 1 訓練評価の目的について、資料を見ながら説明できる。
- 2 訓練評価の4つの性能とトレードオフについて、例を挙げながら説明できる。
- 3 訓練評価の5レベルについて、資料を見ながら説明できる。
- 4 訓練活動の評価について、練習用仮想訓練コースを対象に開発手順に従って、評価計画とアンケート用紙・ヒアリング項目を作成できる。
- 5 受講者の評価について、練習用仮想訓練コースを対象に作成例を参考にしながら、筆記試験と実技試験を作成できる。

授業計画(左が新カリキュラム対象者、右が旧カリキュラム対象者)

授業計画(左が新カリキュラム対象者、右が旧カリキュラム対象者)		備考
1	1. ガイダンス (1)シラバスの提示と説明	moodleで可能 (5月20日以降)
	2. 訓練評価の定義	
	3. 訓練評価の全体像と使う場面	
2	4. 訓練評価に必要な知識 (1)総括的評価と形成的評価 (2)訓練目的・到達目標との関係	moodleで可能 (5月20日以降)
3	(3)訓練評価の5レベル (4)訓練評価の性能	
4	5. 訓練生の評価	moodleで可能 (5月27日以降)
5	(1)主な評価ツール (2)口頭質問と机間巡視 (3) ×試験の開発	
6		
7	(4)筆記試験の開発(客観的試験法、主観的試験法)	moodleで可能 (7月以降) PC必要
8		
9		
10	(5)実技試験の開発(実技試験の種類、実技試験の評価対象、配点計画、採点基準の定め方)	moodleで可能 (7月以降) PC必要
11		
12		
13		
14		
15	6. 訓練活動の評価	moodleで可能 (8月以降) PC必要
16	(1)主な評価対象と確認項目	
17	(2)訓練活動の評価方法	
18	(3)訓練活動の評価ツールの開発	
	7. 多様な訓練生の把握と支援による訓練活動の改善 (1)多様な訓練生と訓練評価法 (2)訓練生のアセスメント (3)リフレーミングによる強み・弱みの発見 (4)強みを活用した支援	

6回目以降はPCが必要なので、校内でmoodleを受講することを想定しています

評価方法	小テスト等 10%、 × 試験の開発課題 10%、筆記試験の開発課題 30%、実技試験の開発課題 30%、 訓練活動の評価ツールの開発課題 20% (新カリキュラム対象者のみ) 多様な訓練生の支援検討課題 20% (旧カリキュラム対象者のみ)
教科書及び参考書	教科書: 自作テキスト
主な使用機器等	moodle
その他	授業は全てmoodleを利用して、自学自習可能な形式である 6回目以降はPCが必要なので、校内でmoodleを受講することを推奨

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 短期養成課程(指導力習得コース)

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数	担当者
全指導科(短期)		教材開発法 (Development Method of Teaching Materials)	36H	藤田 紀勝
科目・コース 区分	指導力習得コース			
授業形態	講義		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	3年次 後期		必修	

授業の目的と概要
<p>[目的] 教材開発法は、訓練目標に到達するために必要な教材・教具を準備・開発できることを目的とした授業です。職業現場の代表的な仕事課題から教材・教具を準備・開発する手法を学びます。</p> <p>[概要] 職業訓練における教育上の主な課題は、様々な職業歴、学習歴、年齢の訓練生に対して訓練の質を保証していく点にあります。教育工学分野の実践研究の知見を通して、多様な訓練生に対して、どのように対応していけば良いかを学びます。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 訓練目標に到達するために必要な教材・教具の準備・作成ができる。 2. 教育現場で生じている典型的な課題について事例を交えて口頭で説明できる。 3. 問題解決力を育成するために必要となる教材開発の基礎的な要件を口頭で説明できる。 4. 訓練効果測定の実施と教材改善の方法を口頭で説明できる。

授業計画		備考
1	1. 全体ガイダンス(授業の全体像、良い教材の定義、優れた教材の定義など)	
2	2. 職業訓練の特徴 (1)職業訓練の変遷、(2)訓練生の変化(配慮を必要とする訓練生の増加など)、(3)職業訓練教材に必要な要件	
3	3. 教材・教具について (1)教材の定義、(2)教具の定義、(3)教材の活用目的、(4)教具の活用目的、(5)教材の選定手順例	
4	4. 職業現場の代表的な仕事課題からの教材設計 (1) 作業分析(職務分析)、(2) インストラクショナルデザイン、(3)CUDBAS	教育工学関連
5	5. 教材指詰演習(1)	教育工学関連
6	6. Deliberate Practiceによる優れた教材設計(物理学講義、環境エネルギー技術者養成訓練)	教育工学関連
7	7. 良い教材と優れた教材 (1)良い教材の事例、(2)良い教材の条件、(3)優れた教材の事例、(4)優れた教材の条件	教育工学関連
8	8. 多様な訓練生へ対応した教材開発 (1)キー・コンピテンシー、(2)Multiple Intelligence Theory、(3)認知過程可視化モデル	教育工学関連
9	中間テスト	
10	10. 熟練技能のeラーニング化	教育工学関連
11	11. 問題解決力を育成する教材設計	教育工学関連
12	12. 教材設計演習(2)	教育工学関連
13	13. 教材開発に必要な文章作成力 (1)間違いがないこと、(2)誤解されないこと、(3)見やすいこと、(4)読みやすいこと、(5)分かりやすいこと	
14	14. 効果測定と教材の改善 (1)訓練効果測定の基礎(t検定、効果量、ルーブリック)	教育工学関連
15-17	総合演習(1)-(3)	教育工学関連
18	期末試験	

評価方法	中間試験(50%)、期末試験(50%)
教科書及び参考書	自作テキスト
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ
その他	